

八海山セミナーハウス



セミナーハウス前から六日町を望む



60cm 反射望遠鏡



セミナーハウスと雪の八海山

工 化 時 報

第34号



Since 1938

工化会会長あいさつ

工化会会長 太田延幸

(昭和54年卒)



昭和54年に卒業いたしました、太田延幸です。昨年5月27日の総会で、前会長 古橋雄二様から工化会会長の職を引き継ぎさせて頂きました。こんな大きな同窓会の会長を務めるのは初めての事として、まだまだ状況を把握しきれていない状態の私に、古橋前会長をはじめ工化会役員の方々や多数の先生のご助言・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。これからも頑張って務めて参りたいと考えておりますので、ご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

今年は物質応用化学科(旧工業化学科)の創設80周年の年になり、すでに2万3千人を超える卒業生を輩出し、多くの卒業生も社会で活躍されておられます。創設80周年記念事業として、祝賀会の開催・記念誌の発行および70周年の時と同様に学生を支援するための記念基金を設立することを目指し、工化会の有志と物質応用化学科教員がともに準備を進めています。

祝賀会は元日本大学副学長・元日本大学理工学部長・日本大学名誉教授の滝戸俊夫先生に祝賀会会長をお願いし、2018年6月23日(土)15時から九段下のホテルグランドパレスにて開催します。70周年記念祝賀会よりも盛大にして、懐かしい先生方や同期生などと校友を温めて頂きたいと思っておりますので、同級生やお知り合いの卒業生にもお誘いあわせの上ご参加いただければと思います。

記念誌は、学科の歩みを振り返りながら、本学科の未来に向けてのさらなる発展に寄与するものとして、物質応用化学科80周年記念誌として11月下旬に発行する予定です。主な内容は、①この10年間の学科の歩み、②カリキュラムの変遷とこれから、③研究室の変遷とこれから、④80周年記念式典報告、⑤募金者名簿などになります。

70周年記念基金は1200万円を超える募金が集まり、大学院物質応用化学専攻ならびに学部物質応用化学科、短大生命・物質化学科の学生に対して、若手研究者支援事業・奨学生支援事業・奨励賞授与事業の3つの事業を展開し、160名を超える学生に授与し学業への励みになっております。80周年も同様な記念基金を設立して多くの学生を支援すべく、

記念会を機会に目標募金額 1200 万円として会員皆様からの寄付を募集しますので、ご協力を宜しくお願い致します。

物質応用化学科は、平成 26 年度から東南アジア国際交流の活動を行っている事は、ご存知の方々もいらっしゃると思いますが、改めてご紹介したいと思います。最近、色々と新聞をにぎわせている、ミャンマー（旧ビルマ）のヤンゴン市内にあるヤンゴン工科大学（YTU）で開催される理工学国際会議に、教員の方々が自前の費用負担で毎年参加し、それぞれの研究テーマの発表を行いながら、YTU の先生方との交流を深めています。昨年も 12 月 9～10 日に、物質応用化学科教員 7 名と大学院生 2 名の合計 9 名が研究発表を行いました。大学院生 2 名に対しては、費用を工化会から援助しております。当初は、こちらからの一方通行での交流でありましたが、ここ 3 年間は、YTU の先生をも工化会の予算で招聘し、講演などをお願いし物質応用化学科の教員・学生および工化会会員との交流も行っています。将来は YTU の学生を日本大学に留学出来るようにしたいと、物質応用化学科と YTU との学科間連携覚書の締結が進められて、本年 1 月 2 日に YTU より今後の学科間連携に向けてのオフィシャルレターが届いたところで、今後は学部の協力もお願いしながらの交流を諮っているところであります。

私も平成 27 年 12 月に、物質応用化学科の教員の方々とともにミャンマーを訪れ、会議にも参加して先生方の発表を聴講したり、ヤンゴン市街を中心に状況を見てきました。時期的にはちょうどアウンサンスーチー氏率いる国民民主連盟（NLD）が総選挙で 8 割の議席を獲得した直後の頃です。街中は、コンビニエンスストアや大型スーパーマーケットなどが営業し活気がありますが、電気や交通などのインフラがまだまだ遅れているように感じました。鉄道にも乗車しましたが、車両は日本の JR 東海で使用していた気動車が使われ、線路等の保守も悪くノロノロ運転で運行していました。また、街中を走る乗用車は、日本の中古車が中心で、動作しないカーナビや ETC が付いている車種もあり、バスも日本の中古車が中心で、右側通行なのに閉まらないドアがセンターライン側にあり、乗り降りするのが怖い状態で運行されていました。

ミャンマーは、経済開放を進めることにより、「アジア最後のフロンティア」と呼ばれるまでに経済成長が有望視されており、これからの発展が注目されています。そのような環境に置かれた YTU との連携することは、物質応用化学科および、学生たちの交際化に繋がる可能性もあるので、今後の動向を見つめていきたいと思ひます。

平成29年度 就職状況



応化進路指導委員会
委員長 清水 繁

昨年度に引き続き、本年度も売り手市場の感が強く、実際に結果も現時点で97%の内定率となっています。

本年度の進路指導委員会の活動を振り返ってみますと、以下のイベントを開催いたしました。7月には、就職活動中の4年生対象にミニ合同説明会を開催し、企業6社にご参加頂きました。9月のガイダンス時には、2年生にはインターンシップについての話をマイナビの方に話して頂きました。近年、就職活動に占めるインターンシップへの参加が重要な因子となりつつあります。期間の長いインターンシップへの参加は、3年生の夏休みです。この時期から意識しておいて欲しいための開催でした。3年生には、就職活動の概要についての話をしました。いよいよ本格的な活動を始める大事な時期ですので、効率よく活動ができるようにするためです。10月から12月にかけて、業界セミナーを開催しました。このイベントは3年生とM1向けのもので、様々な業界の企業の方にお越し頂き、その業界についての説明をして頂きました。12月には、第4回「夢実現プロジェクト」を開催しました。41社のご参加を頂き、3年生、M1学生の参加者数も200名を超え、これまでで最大の規模となりました。このイベントは2部構成となっており、まず参加学生は企業の人事の方とざっくばらんに就職活動についての話をします。多くの学生にとっては、企業の方と話すのは初めての経験かと思えます。その後、興味のある企業ブースでの説明を受ける事になります。本格的な就職活動が開始される前のこの時期に、企業の方々と話ができることは貴重な経験になるものと考えております。学生の参加者がこれほど多いことは、自身の将来について真剣に考えていることを示しています。これまでも増して、このイベントを通じてご参加頂いた企業から内定を頂けることを切に祈っております。このほか、進路指導委員会の主催ではありませんが、単発で個別企業の説明会が

開催されました。この説明会は、教員との人的つながりでローカルに開催されたものですが、この説明会から興味を持ち、エントリー、内定に至った例は過去かなりの数に上っています。年が明けてからは、就職活動解禁直前となる2月に学部の学内セミナーが開催されます。学生は、このセミナーで弾みを付けて3月の就職活動に向かいます。水面下では、既に次年度の就職活動が始まっています。学科一丸となって内定率100%を目指し活動を続けます。

最後に、卒業生の方々のご支援も頂けることをお願いいたします。

下写真：7月開催
ミニ合同説明会



上写真：12月開催
夢実現プロジェクト

多目的燃料添加剤の製造・販売

有限会社深澤化学研究所

〒194-0041 東京都町田市玉川学園8丁目14-24

昭和52年卒 取締役副社長 深澤豊史



PVC・他合成樹脂 コンパウンドメーカー

昭和化成工業株式会社

〒348-8585 埼玉県羽生市小松台1-603-29

TEL: 048-561-5221

E-mail: SOUMU@showakvc.co.jp

ホームページ <http://www.showakvc.co.jp/>

昭和53年卒 代表取締役社長 池本俊一

学科創設 80 周年記念祝賀会へのお誘い

創設80周年記念会 会長 滝戸俊夫



物質応用化学科そして工業化学科卒業生の皆様、いよいよ本年6月に学科創設80周年を迎え記念祝賀会が開催されます。

これまでの創設50周年記念祝賀会（昭和63年）、創設70周年記念祝賀会（平成20年）では、いずれも会場あふれんばかりの卒業生が集結し、多くの笑顔の中に熱い絆が実感できる祝賀会となりました。

創設80周年記念祝賀会におきましても、恩師や友と、また先輩や後輩と、楽しかったそして苦しかった「あの頃」を懐かしく語ろうではありませんか。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

工化会の会員の皆様には平成30（2018）年を迎え、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。さて本年、平成30年は平成が30年目というだけではなく、工業化学科（現物質応用化学科）が創設された昭和13（1938）年から数えて80年目を迎える記念すべき年でもあります。

そこで、この学科創設80周年という記念すべき年に、校友の皆様とともにその喜びを分かち合いたいとの思いから、工化会と物質応用化学科教室の共同主催で、学科創設80周年記念会を立ち上げ、80周年記念事業を展開することにいたしました。つきましては、来る、6月23日（土）午後3時（開場、午後2時）から、東京、九段下にあるホテルグランドパレスにおいて学科創設80周年記念会で祝賀会を開催いたします。『80年の歩み!! 未来へつなげよう、広げよう化学の力』をキャッチフレーズに、約300名の記念会発起人にご賛同をいただきまして、多くの校友の皆様をお迎えし、盛大に記念会・祝賀会を挙行したいと準備を進めております。皆様のご友人をはじめ、お知り合いの校友をお誘い合わせの上、多数の皆様にご臨席いただけましたら大変嬉しく存じます。

皆様に記念祝賀会のご案内を郵送させていただきました。届いていない校友をご存じでしたら、ご面倒ですが下欄のお問い合わせ先までご一報いただけないでしょうか。皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。沢山の卒業生と旧友を温める会にしたいと思います。ご参加を心よりお待ちしております。

TEL: 03-3259-0837 (受付 平日 午前10時から午後5時)

FAX: 03-3293-7572 (物質応用化学科 教室事務室)

E-mail: 80info@chem.cst.nihon-u.ac.jp

学科創設80周年記念会実行委員長兼総務委員長 栗原清文
祝賀会実行委員長 深津 誠

海外出張報告

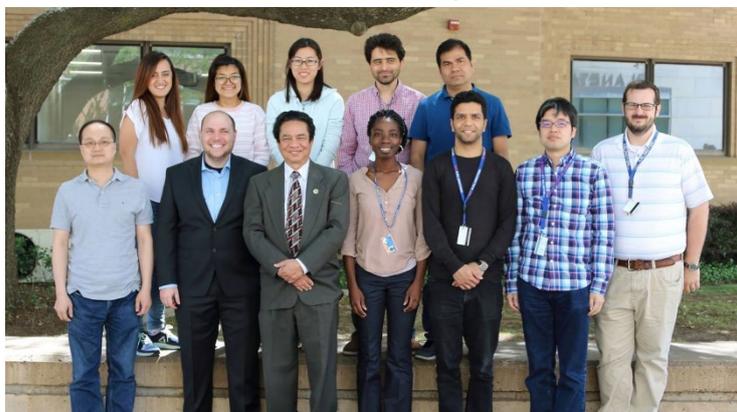
無機機能分析研究室
専任講師 吉川賢治



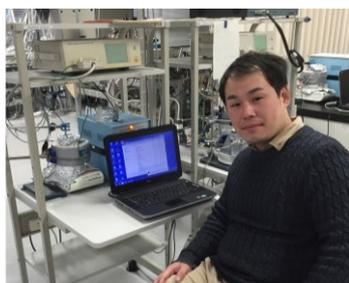
2016年8月18日から1年間、日本大学海外長期派遣研究員としてテキサス大学アーリントン校のDasgupta研究室に在籍していました。キャンパスがあるアーリントンは近代アメリカの象徴であるダラス、カウボーイ発祥の地であるフォートワースの間に位置し、短時間の移動でテキサスらしさをほぼ全て体感できます。もしくは、以前にダルビッシュ投手が在籍したテキサス・レンジャーズの本拠地と言った方がイメージしやすいでしょうか。

研究室を率いるDasgupta教授は分析化学(特に分離分析)の分野で特に有名で、2015年には日本分析化学会の名誉外国人会員にもなられた著名な方です。滞在中はイオンクロマトグラフィー(IC)に関する研究を行っていましたが、日本で主に行っている一般分析ではなく、ICの装置構成の一部である溶離液ジェネレーターに着目し、ガス浸透膜を用いた新たな溶離液ジェネレーターの開発を行っていました。在籍中にはアメリカ特有の英語発音に苦戦しながらも、目標の1つであった国際学会での発表を達成しました。

海外経験が全くなかった自分でも1年間乗り越えられたのは、純粋な海外への興味とある意味での怖いもの知らずさが功を奏したのかもしれません。また、世界規模での分析化学の重要性を改めて知ったような気もします。今回得られた経験をもとに研究キャリアを積み重ねていくと共に、分析化学の重要性や面白さを分かりやすく伝えていくことも自身に課されたミッションかもしれません。

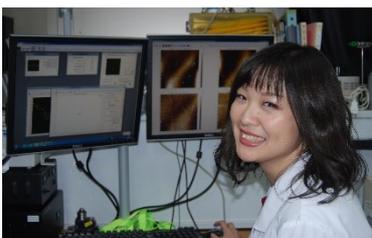


Dasgupta研究室の集合写真(2017年4月7日撮影)
前列左から3番目がDasgupta教授、右から2番目が筆者

工化会賞受賞者の声**平成29年 70周年記念賞若手研究者支援受賞者**

外山 直樹
(2017年博士後期修了)
無機材料化学研究室卒

私は2017年3月に博士号を取得し、現在は東北大学金属材料研究所 水素機能材料工学研究部門 折茂教授の研究室で産学官連携研究員(ポスドク)として勤務しています。こちらの研究室では、エネルギー利用のための水素化物の研究を行っており、高密度水素貯蔵材料の合成や高速イオン伝導体の開発などへ展開させています。私は、水素化物を用いた高速リチウムイオン伝導体の検討を行っており、将来的には全固体電池の固体電解質へ応用させることを目標としています。電気化学的評価や結晶構造学など経験のないことも多くあり、日々勉強の毎日です。また、産学官に幅広い連携をもっており、国内外の大学・研究所や企業との共同研究を多数行っています。研究のコンセプトから戦略まで考え伝えることは、非常に大変ですが研究職のやりがいを感じる部分でもあります。早く成長して、一人前の研究者になり、自分の研究を世界に広げていくつもりです。



中山 麗
(2017年博士後期修了)
高分子工学研究室卒

私は、2017年3月に博士(工学)の学位を取得し、現在は九州大学大学院工学研究院応用化学部門 藤ヶ谷剛彦准教授の研究室にて学術研究員(ポスドク)として、燃料電池に関する研究に日々励んでおります。学生時代に高分子材料の構造解析や物性に関して研究を行ってきたため、専門外の研究をしているように思われがちですが、今まで培った技術と知識は燃料電池の電解質膜と電極触媒に関するプロトン伝導メカニズムの解明や電池の低コスト化と高活性化に活かされており、慣れない環境や高度な世界で耐え抜く力は、他機関他大学での研究といった貴重な経験を学生時代にさせて頂いた研究室の先生方のお陰と感謝しております。

最後に、学位取得およびこのような有難き賞を頂くにあたり、高分子工学研究室の清水繁教授、伊掛浩輝准教授をはじめとすご指導ご鞭撻を頂戴した学科の先生方、公私にわたり支えてくださった皆様に感謝申し上げます。まだまだ研究者および教育者として色々なことを吸収する毎日ですが、一人前になるべく精進して参ります。

無機機能分析研究室所属 進藤 大輝
(平成29年 物質応用化学科卒)

現在、私は大気圧プラズマ照射による粒子の表面改質について研究を行っております。大学院に進学し、このように研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からの御支援、また様々な方のおかげであり、心から感謝申し上げます。今後も研究だけでなく勉学に取り組むことで社会に貢献できるように日々精進していきたいと思っております。

また、工化会の皆様が今後も大学院に進学をする学生への御支援を続けてくださることを心より願っております。

有機合成化学研究室所属 半沢 直樹
(平成29年 物質応用化学科卒)

現在、私は担持試薬を用いたイソオキサゾリン誘導体の合成を行っております。大学院に進学し、研究に打ち込むことができるのも、工化会の皆様からの御支援のおかげであり、心より感謝申し上げます。これからも研究、勉学に励むとともに、社会に貢献できるよう、日々精進してまいります。最後に、工化会の皆様が今後も大学院に進学する学生への御支援を続けてくださることを願っております。

平成29年度 学会賞・学生の活動

本年度の物質応用化学科の学生・OB の学会賞の受賞等の活躍をご紹介します。(集計期間：平成29年2月～平成30年1月)

【教員の部】

- ・大月 穰 (超分子) ISPAC2017 Lecture Award
- ・遠山岳史 (無分) 第58回無機マテリアル学会 学術賞
- ・遠山岳史 (無分) GREEN2017 Award

【学生の部】

- ・山下 博 (有材) 第6回高分子学会 グリーンケミストリー研究会シンポジウム、口頭発表優秀賞
- ・齋藤啓太 (無材) 第71回セメント技術大会優秀講演者賞
- ・向後光亨 (無材) 第135回無機マテリアル学会学術講演会 若手優秀発表賞

- ・ 木田勇一 (有材) 理工学部学術講演会、優秀口頭発表賞
- ・ 田代憲史郎 (有合) 理工学部学術講演会、優秀口頭発表賞
- ・ 大森 創 (有合) 理工学部学術講演会、優秀ポスター発表賞
- ・ 桐生莉沙 (2 年) 第 51 回全日本学生トランポリン競技選手権大会 準優勝

【OB の部】

- ・ 橋本貞治 氏 高分子学会賞(平成 11 年物質応用化学専攻修了、高分子工学研究室)
(日本ゼオン(株))

クラス会・同窓会の報告

第 1 回高分子合成研究室同窓会開催報告

2017 年 11 月 4 日(土)17 時より理工学部 1 号館食堂にて同窓会が開催され、会員 50 名が参加した。同窓会の前身である高分子合成研究室同友会は 2002 年に発足し、卒業生、学生、職員、関係のある先生方の交流の場として活用されていた。しかしながら、2016 年 3 月末日をもって高分子合成研究室が解散となったことから、同友会から同窓会として、卒業生の会として継続開催することとなり、昨年が最初の会であり、今まで以上に盛況であった。高分子合成研究室同窓会は、毎年 11 月第 1 土曜日に開催を予定している。第 2 回高分子合成研究室同窓会は、2018 年 11 月 3 日(土)大学食堂等で開催を予定している。卒業生皆様のご参加をお待ちします。



(同窓会役員：新国貞幸会長、片桐正志副会長、工藤慎平幹事長、高間幸夫及び大室泰典会計、丸野晋平監査)

昭和 42 年卒工業化学科同期会報告

桜の蕾が膨らみもう 2、3 日で開花するという 3 月 24 日(金)、平成 29 年の 42 工化同期会を理工学部 1 号館にて開催しました。

50 年前、何度も通り抜けた“懐かしき 1 号館正面玄関”が飾られたロビーを見下ろすカフェテラスに、北は桃の福

島郡山、西は蜜柑の蒲郡から22人が集まりました。

元気を装ってはいても平均年齢7?歳。立食の乾杯で始まるや否や壁際に並べられた椅子を中央に各自持ち出し、たちまち全員定位置を確保して座し、孫や趣味や社会貢献、はたまた自病の自慢話など。話はとめ度無く弾んで、当今流行りの喚問とか弾劾とか付度らしきが遠慮もなく行き交うものの、利害関係は50年前と同様全く存せず、他愛もない笑いの中に2時間が過ぎて行きました。

最後に卒業当時全員が大変お世話になった村川信子姉御(今となってはもう、同級生同然なのですが)の喜寿を祝して花束を贈らせていただきました。

残念ながら参加できなかった方々にも、会の開催にあたって寄せられた便りを名簿の形にして送らせてもらいました。

次回は2年後(平成31年)の秋、元気な再会を約して散会しました。



(平成29年3月 今田雅躬)

化学工学研究室(留和会)創設65周年記念会 開催される

去る平成29年10月21日(土)に、JR・地下鉄市ヶ谷駅近くのホテルアルカディア市ヶ谷の6階霧島の間にて、化学工学研究室の卒業生の会である留和会(命名は研究室の創設者である故小島和夫日本大学名誉教授)が、総勢百余名の卒業生の参加を得て開催されました。今回は、研究室創設65周年を迎えた記念する会として、また越智健二先生が平成29年度の春の叙勲において、瑞宝小綬章を受賞されたことをお祝いする会として企画されました。本会を開催するにあたっては、実行委員長を中山光徳様(昭和49年3月卒業)、司会進行を近藤大樹様(昭和62年3月卒業)、また写真撮影をプロの写真家である小西英男様(昭和44年3月卒業)にお願いしました。

会の中では、越智先生が平成28年に傘寿を、栃木勝己先生は平成26年に古希を迎えられましたので、そのお祝いも盛大に執り行いました。当日、諸般の事情で欠席された皆様にも、次回の創設70周年記念会にはぜひご出席いただけ

れば幸いです。なお、本会の様子を撮影した写真を下記の留和会ホームページに掲載しましたので、御覧ください。

URL: <https://photos.app.goo.gl/2tIrhWXY8bQ14At1>



平成29年10月21日 於アルカディア市ヶ谷 撮影 44橋小西美男

(日本大学理工学部物質応用化学科 教授 栗原清文)

櫻川昭雄先生退官記念祝賀会報告

櫻川昭雄先生が平成 28 年 3 月に退官され、昨年(平成 29 年 11 月)に桜分会として櫻川先生の御定年を両国、第一ホテル東京にてお祝いいたしました。総勢 81 名の出席者があり、櫻川先生を中心に和気藹々としたアットホームな会となりました。櫻川先生は現在、理工学部特任教授として講義のほかには後進の指導に当たっています。

会の最後には藤池桜分会会長から尾島氏に会長がバトンタッチされ、2020 年に桜分会を開催したい、との宣誓がありました。皆様のご参加をお待ちしております。



(文責: 無機機能分析研究室 遠山岳史)

有機合成化学同窓会「第 2 回総会」開催報告

従来の 3 つの同窓会(工化時報第 32 号参照)を統合して新たに発足した有機合成化学同窓会では、平成 29 年 11 月 25 日(土)に日本大学桜門会館において、第 2 回総会を開催しました。当日は妹尾学先生、大内秋比古先生をはじめ、太田延幸会長を筆頭に凡そ 100 名が参加しました。

総会では滝戸俊夫先生の古希、上條治夫先生の定年退任、青山忠先生の勤続 15 年など、豊富な話題に加え、参加され

た方々の近況報告を交えて、和気藹々とした雰囲気の中、時間の流れを忘れさせる集まりとなりました。

尚、本稿執筆直前に、中沢利勝先生の訃報に接したことは、会員一同として大変残念であるとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



ミャンマーとの国際交流の現状

平成27年度より工化会のご支援を受けて始まったミャンマーとの国際交流会は、3年目の29年度工化会通常総会におきまして、毎年ヤンゴン工科大学(YTU)で開催される国際学会ICSEへの大学院学生の派遣をお認め頂きました。これにより博士後期課程に在学する南澤宏瑚さんと博士前期課程に在学する下山瑠美さんの2名が平成29年12月9・10日で開催されたICSE2017へ参加しました。英語での発表はもちろんですが、初めて見るミャンマーの街並み、人々の生活や優しさなど、テレビからは感じられない多くの経験をして帰国しました。また、YTU教員の招聘に関して本年度は諸般の事情により3月17日～22日の年度末の開催となりProf. War WarとDr. Hyo Myint Hanの2名の先生を招聘して講演をいただきました。また、来日中に開催されていた日本化学会第98春季年会の見学もされました。理工学部から金銭的支援を得るために必要な「学科間提携覚書」を獲得するまでの支援として行われているこのプログラムですが、平成30年1月2日にYTUより今後の学科間連携に向けてのオフィシャルレターが届きました。今後は学部を通してさらなる交流を齎ってまいります。(青山 忠)



Mar Lar Than 教授と南澤くん

発表中の下山さん

越智健二先生、瑞宝小綬章受賞を叙勲される

化学工学研究室にて長年、教育・研究に携われた越智健二日本大学名誉教授が、平成 29 年(2017)度春の叙勲において、瑞宝小綬章を授与されました。先生は愛媛県越智郡のご出身で、昭和 12(1937)年 6 月生まれの 80 歳(平成 30(2018)年 1 月の本稿執筆時)です。本学工学部工業化学科(現理工学部物質応用化学科)のご卒業は昭和 36(1961)年 3 月、その後、日本大学大学院工学研究科応用化学専攻(現理工学研究科物質応用化学専攻)の修士課程に進学、昭和 38(1963)年 3 月に修了されました。修了後、同年 4 月に本学部に臨時雇いとして奉職され、以来、平成 18(2006)年 3 月 31 日に定年退職されるまでの 43 年の永きに亘り、学生の教育・研究指導ならびに学術研究、学協会での諸活動に鋭意尽力されました。

この間、昭和 50(1975)年 3 月に工学博士(日本大学)の学位を修得され、昭和 58(1983)年 4 月に本学短期大学部応用化学科(現生命・物質化学科)に教授として着任され、平成 5(1993)年 4 月に理工学部工業化学科に勤務替えされました。先生は短期大学部在籍中には平成 4 年 10 月から平成 5 年 8 月まで応用化学科長を、学部工業化学科に移られた平成 5 年 10 月から平成 7(1995)年 9 月に掛けては工業化学科教室主任を努められ、本学部のみならず短期大学部においても教育研究および管理運営に精励され、その興隆発展に多大なる貢献をされたことは、卒業生の皆様には周知のことと思います。

一方、越智先生は化学工学分野の熱力学を専門とし、特に成分分離・精製に必須の各種物性の測定と、それらの熱力学的信頼性の評価ならびに物性推算法に関する研究に精進され、多くの成果を上げられました。また越智先生は学協会での諸活動にも積極的に取り組み、中でも分離技術会では各種委員会の委員長、副会長また会長を歴任され、同学会の発展に尽力されるとともに、化学工学会においても熱物性データベースの構築に関するワーキンググループを主宰するなど、化学工学分野の学術発展に寄与されました。

以上のような功績が認められた結果、平成 18(2006)年 6 月に日本大学名誉教授の称号を授与されたのに引き続き、今回の瑞宝小綬章の叙勲という栄誉に浴されたわけであり、卒業生一同、先生に心からの祝意を表す次第です。

(文責 栗原清文)



新任紹介

無機機能分析研究室
助手 金子 剛大



平成29年4月より物質応用化学科の助手に着任致しました金子剛大と申します。平成25年に本学科を卒業後、物質応用化学専攻に進学し修士(工学)を取得しました。また、同専攻博士後期課程にて2年間研究に従事してまいりました。研究活動では無機機能分析研究室に所属し、一貫して炭素系または金属-炭素複合系水素貯蔵材料の開発およびその水素貯蔵機構の解明を行っております。

現在、専門化学実験を担当しており、本学科にて化学教育に携わる機会を頂きましたことに感謝申し上げますと共に責任を感じております。これまでご教授いただきましたことを胸に、一教員として教育に励んでまいります。物質応用化学科・専攻で学んだことに誇りをもち、自信を持って社会で活躍していける人材の育成に尽力する所存でございます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新任紹介

短期大学部 生命・物質化学科
助手 平戸 祐喜



平成29年4月より短期大学部生命・物質化学科の助手に着任致しました平戸祐喜と申します。平成24年に本学理工学部物質応用化学科を卒業後、理工学研究科の博士前期・後期課程へ進学し博士(工学)を取得しました。在学中は環境微生物学研究室に所属し、微生物を利用した二酸化炭素を原料とする高分子材料の生産や酵素タンパク質の結晶化および構造・機能解析についての研究を行っていました。工化会の皆様には70周年記念賞として若手研究者支援をして頂きました。ご支援していただきましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。現在は短期大学部で化学実験および卒業研究を指導しています。短期大学部生はその多くが学部へ編入するため、お世話になった母校に貢献できることを光栄に思うとともに大きな責任を感じています。自信と誇りを持って社会で活躍できる人材を育成するため誠心誠意の気持ちを持って取り組んで参りますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

平成 29 年度工化会事業報告

平成 29 年度工化会通常総会は、駿河台校舎 1 号館 3 階 131 教室にて平成 29 年 5 月 27 日(土)午後 3 時より、役員・会員 298 名(内委任状 222 名)の出席を得て開催されました。総会では、庶務、会計、会員、会報の各委員会の平成 28 年度事業報告および会計報告、ならびに平成 29 年度事業計画および会計予算案、藤池誠治工化会顧問の理工学部校友会個人表彰への推薦、役員改選案の審議を行い、これらを承認しました。また、学科創設 70 周年記念基金学生支援事業の奨学金が 2 名に授与されました。総会後は駿河台校舎 5 号館学生食堂で懇親会が開催され、太田延幸会長の挨拶、物質応用化学科教室主任の小嶋芳行先生より現況報告があり、ホームカミングデーとして招待された還暦を迎える卒業生に記念品を贈呈致しました。

本年度の事業計画としては、役員会・通常総会の開催、附属高校生のための CST オープンカレッジ 2017、駿河台入試フォーラム 2017、平成 29 年度日本大学理工学部一日体験化学教室、CST オープンキャンパス 2017、短大ものづくり&サイエンススクール 2017、第 4 回物質応用化学科夢実現プロジェクト、第 11 回合格者相談会、平成 29 年度物質応用化学専攻・同学科ならびに短大生命・物質化学科合同の学位記伝達式、物質応用化学科主催のミャンマーとの国際交流会の 9 つの事業に対する後援、工化会賞の授与、工化会主催の講演会の開催、工化時報の発行・発送が承認されました。

さて工化会賞は卒業時に、在学時の学術・文化等において顕著な結果を残し、工化会の名誉を高めるに貢献した学生を工化会として表彰するものですが、本年度も厳正な選考を行い、受賞者 45 名には、3 月 25 日(土)に開催した大学院・学部・短大合同の学位記伝達式の際に賞状と記念品を贈り、その栄誉を讃えました。なお本学科の創設 70 周年記念事業として制定された若手研究者支援(大学院博士後期課程在学者が対象で当該年度の学位修得者)、奨学生支援(学部の成績優秀者で特待生を除く)、奨励賞(大学院・学部・短大の修了・卒業生の中で高難易度の資格免状等を取得、または好成績を収めた学生が対象)については、若手研究者支者は 1 名、奨学生支援は 2 名、奨励賞については 38 名に対して支援・授与が行われました。

最後に平成 29 年度の工化会予算についてですが、本会では予算を経常会計予算と特別会計予算の 2 種類を編成しており、平成 29 年度経常会計予算は総額 768.7 万円で、その内

訳は学生支援事業費が 12.0 万円、各種講演会・行事補助費として 87.0 万円、卒業生支援事業費は 107.1 万円、その他 131.0 万円、次年度繰越金が 431.6 万円であり、特別会計予算は総額 1272.3 万円で、内訳は卒業生支援事業費に 140.1 万円、会費・寄付金郵便振替対応業務として 4.0 万円、国際交流支援に 80.0 万円、次年度繰越金として 1048.2 万円計上しています。なお平成 29 年度の会員諸氏による会費の納入状況は、本号の会費納入者氏名一覧をご覧ください。

最後に、平成 29 年度の工化会主催行事ならびに後援事業の概要を以下に報告します。

① 4月1日(土)14:00~16:00

役員会：役員 37 名出席（内委任状 8 名）。

② 5月27日(土)15:00~17:00

通常総会：298 名出席（内委任状 222 名）。

③ 6月11日(日)

CST オープンカレッジ 2017：付属高校生 238 名が来場。

④ 7月9日(日)

駿河台入試フォーラム 2017：高校生 134 名が来場。

⑤ 7月30日(日)

平成 29 年度日本大学理工学部物質応用化学科一日体験化学教室：高校生他 66 名が参加。

⑥ 8月5日(土)、6日(日)

CST オープンキャンパス 2017：高校生 896 名が来場。

⑦ 11月3日(金)

短大ものづくり&サイエンススクール 2017：地域の方、のべ 160 名が参加。

⑧ 12月15日(金)

第 4 回夢実現プロジェクト：企業 41 社が参加。詳細は進路指導委員会からの就職状況報告を御覧ください。

⑨ 2月18日(日)、25日(日)

第 11 回合格者相談会：

18 日(日)：8 組 12 名、25 日(日)：17 組 32 名、両日で 25 組 44 名が参加。

⑩ 3月19日(月)15:00~18:00

工化会特別講演会：

1) 講師：War War 先生 (Yangon Technological University)

演題：Current situation of chemical education in YTU

2) 講師：Myo Myint Han 先生 (Yangon Technological University)

演題：Present state of internationalization and international partnership in YTU

招待者・教職員・学生対象に開催。

⑪ 3月25日(日)

平成 29 年度物質応用化学専攻・同学科ならびに生命・物質化学科学位記伝達式。

以上 庶務委員会

会費,寄付金納入者名簿 (平成30年1月26日現在)

昭和16年卒	米山 廣保	児玉 五男	中村 紀史	小林 実
和田守 哲治	渡辺 文夫	桜井 鉦二	桔梗 隆	仲野 一次
天野 章	荻野 堯	玉置 憲三	小串 照宗	野口 文雄
樫村 正久	高橋 久雄	出蔵 隆輝	昭和37年卒	野尻 義雄
昭和19年卒	浅川 和昭	藤森 信正	伊地知 龍清	原 襄輔
脇 幹夫	昭和30年卒	松浦 豊紀	伊藤 成利	堀 是治
神谷 洋	綾野 怜	宮 道夫	奥山 正之	松村 政之
日暮 忠弘	金井 孝道	山谷 保二	小谷 嘉孝	田幡 安郎
昭和20年卒	古川 新	横川 徹也	小林 昭朗	山崎 彰
澁谷 洋平	植竹 和也	栗原 孝夫	駒井 俊雄	横田 力男
杉浦 銀蔵	近藤 練太郎	昆野 澄夫	齋藤 一郎	和田 高伸
昭和21年卒	昭和31年卒	貫井 徳蔵	清水 大三	青木 匡
石川 幸一	川口 國雄	横倉 隆康	庄司 翠	北村 隆
斉藤 光平	小松原 彬	昭和35年卒	杉崎 秀夫	小屋原 英
昭和22年卒	田中 宏之	安達 昭郎	丹野 彰	鈴木 良治
大川 襄治	高木 弦	青木 滋夫	塚田 政弘	田中 誠世
昭和23年卒	高橋 一正	青木 弘	富田 允雄	高松 武生
日吉 和男	中 嘉久	石川 好隆	長谷川 修一	富士 光男
伊東 達郎	川合 武夫	内田 穆堂	宮沢 武次	寺山 洋子
伊藤 讓	柿澤 正彦	笠井 啓也	石岡 龍右	昭和40年卒
昭和25年卒	雁部 敬夫	黒木 妙子	磯崎 昭徳	稲葉 清彦
小林 猛夫	田畑 調友	河合 哲次	神保 進	上田 輝也
池田 富三	吉田 幸三	小林 隆夫	長田 守一	上野 公雄
榊田 雄三	昭和32年卒	定方 聰博	長友 良久	牛山 惠次
古館 和夫	阿久津 芳彦	塩澤 進	植木 庄左衛門	沖本 武且
吉岡 典照	網代 良太郎	篠 大太郎	昭和38年卒	加藤 昌弘
吉田 耕一	工藤 富司	鈴木 修	井野 二陸	上條 陽一
昭和26年卒	竹内 孟	瀧澤 文男	佐野 直道	佐藤 瑞雄
鈴木 信夫	竹原 晃	永井 洋見	稲垣 甫	土田 紘一
稲垣 正	東海林 正	難波 純一	大野 維夫	飯野 宏治
太田 精一	樺本 弘昭	野島 秀次郎	大橋 隆	高橋 志郎
垣内 宏	永田 治義	橋本 卓也	大村 俊晴	武井 秀彦
中野 博司	西田 金誉	原 幹夫	木村 次雄	高間 伸一
昭和27年卒	矢作 栄甫	町田 収	久喜 徹	丹野 隆善
植松 貢	依田 惠市	谷田部 寛昭	栗田 公夫	西脇 鉄雄
柏木 治彦	斎木 稔	吉岡 靖隆	坂本 一	幡野 匡彦
外山 研次	笹原 孝	渡邊 高章	竹内 栄多	三谷 治博
国分 兼一	渋谷 六郎	倉形 邦英	塚田 豊	清水 博太
橋 敬治	村松 勉	関口 勝一	中原 章夫	飯原 打越
直川 準	清治 英子	高橋 健一	永田 正巳	山岡 景仁
井出 俊一	昭和33年卒	丸山 長資	西山 孝彦	有田 喜一
石田 宏	阿部 正明	宮本 實	原田 文雄	昭和41年卒
高田 芳行	青山 達也	島田 洋子	渡部 長幸	桶 勝行
和井内 徹	五十嵐 輝行	大石 昌弘	原 章	中澤 豊
昭和28年卒	伊藤 明	村川 信子	荒谷 作松	藤池 誠治
佐藤 正巳	大井 壽	大西 寛	長嶋 潜	宮城 晃
村上 全司	奥野 士郎	昭和36年卒	白石 益郎	村井 直樹
山口 猛	加賀 勤之助	石井 照明	杉田 松生	木村 勲
鈴木 一成	柏崎 敏郎	石川 隆夫	中村 智	嶋田 晋廣
田村 佐重	久保田 景一	宇賀治 正名	藤野 裕	館 敏夫
石田 壽文	熊谷 祐一	漆原 孝太郎	鈴木 忠	白龍 美津
徳永 静	小林 脩一	小川 昌太郎	昭和39年卒	彦田 一夫
福島 敏郎	才木 義夫	越智 健二	秋草 幸雄	真下 清
堀 武	齋藤 二郎	仮戸 斌	秋本 幹夫	高桑 豊三
松岡 高	清水 巖	木村 繁夫	石井 国昭	玉應 亨
吉川 和夫	田中 孝彦	黒尾 良康	石川 和正	昭和42年卒
上杉 哲	高木 三郎	佐藤 進	金田 紘一	赤坂 洋輔
昭和29年卒	滝淵 幸二	齋藤 博	神谷 中	畑中 幸市
井上 秀雄	中辻 賀治朗	坂本 昌伍	龟村 轟	岡見 宏道
小林 清人	中山 直之	鈴木 善治郎	渡辺 久和	鈴木 健之
周 永實	西野 武	炭田 幸宏	児玉 義宏	柄山 勝己
瀧谷 俊雄	箕浦 滋	高柳 裕臣	齋藤 伸之	中井 忠男
谷川 清	宮森 隆志	村田 敏弘	斉藤 博之	永井 紘志
寺島 昌訓	吉田 靖	柳 弘来	斉藤 守園	永田 一雄
中嶋 貞夫	広瀬 俊雄	横山 樹静	瀬尾 宏	豊田 文江
長山 勝政	昭和34年卒	渡辺 鏡治	竹石 肇	古阪 一昭
峯岸 俊夫	牛込 力夫	佐藤 貞男	武田 幸久	溝口 隆一
八田 肇	大久保 勝弘	砂川 憲二	奈良木 亨丞	山下 睦之
横田 一郎	小林 照弘	野村 友次	中田 博	稲川 栄一

長田 義男	昭和48年卒	原田 哲也	谷田貝 仁恵	平成9年卒
佐藤 馨	加来 文隆	渡辺 寿悦	中山 佳則	浮谷 基彦
田中 秀也	門井 文夫	阿部 哲夫	原川 優子	木田 秀一
富田 潤一	重藤 峻一	黒澤 鍊二	矢島 浩之	疋田 健
山崎 博	渋谷 修	昭和54年卒	山田 美穂子	林 秀憲
昭和43年卒	中村 宗光	浅野 祥司	谷田貝 隆	平成10年卒
浅井 保雄	長谷川 一夫	小笠原 幸道	久保田 博明	伊掛 浩輝
宇智田 俊一郎	平林 明夫	太田 延幸	立岩 洋	岩瀬 直子
海上 幸三	山中 操	大野 正博	寺嶋 一彦	横田 昇平
北村 正孝	渡辺 明典	久保 俊一	昭和59年卒	平成11年卒
梅北 司	大高 由輝	小林 良夫	大坪 利彰	浅野 賢一
佐藤 精二	川津 義人	菅野 靖	小峰 昌弘	平野 壮哉
進藤 宣昭	小宮 清子	杉山 文敏	田島 千佳子	平成12年卒
昭和44年卒	坂口 信昭	中村 眞理子	清水 繁	伊掛 美里
安藤 純一	藤井 克彦	服部 洋一	長島 敬明	平成13年卒
石井 和夫	矢田 智	目良 昌三	昭和60年卒	藤田 尚之
石山 利男	増村 正志	谷藤 善美	太島 佐知子	平成14年卒
井上 隆	関口 優紀	山中 一典	石見 勝洋	角田 雄亮
今脇 秀雄	昭和49年卒	横森 英俊	村松 岳彦	吉川 賢治
大橋 正宣	牛山 仁司	吉村 仁孝	飯田 岳之	藤代 昭子
桜井 浩平	久保 隆	坂本 惠一	昭和61年卒	平成15年卒
信濃 孝之	小島 元昭	鈴木 昌三	片桐 正志	堀川 達哉
新藤 豊彦	小林 正男	坂本 信子	小林 千晃	平成16年卒
田中 敦	小茂田 英男	昭和55年卒	小嶋 芳行	鈴木 千尋
望月 正二	佐藤 憲一	飯田 敏昭	昭和62年卒	平成17年卒
花井 秀之	澤口 孝志	金子 堅司	加藤 慎次郎	赤澤 寛行
堀 显弘	末木 康行	黒瀬 健介	栗田 直人	平成19年卒
八幡 順一	湯川 吉美	小出 真	幾留 孝司	伊藤 拓哉
横山 二郎	武安 栄樹	砂端 栄治	清水 恵樹	平成20年卒
小栗 勝治	館 徹	多田 康男	昭和63年卒	小出 優一郎
小林 勉	野澤 美文	戸塚 宏	石井 睦子	平成21年卒
濱田 文雄	野原 孝司	道家 裕	中村 葉子	原 秀太
原 幸夫	元木 英二	丸山 博秀	歳森 幹生	吉田 隼人
鷗持 晃	山崎 純一	森 弘通	三井 宏	平成23年卒
昭和45年卒	田島 平良	木村 昌広	村山 竜一	太田 直裕
小林 満	昭和50年卒	波岡 宣彦	中西 剛	春日 龍史
篠崎 勝彦	上田 賢二	昭和56年卒	中道 幹芳	平成24年卒
田中 碩	小菅 信博	池田 実	平成元年卒	今井 剛史
滝戸 俊夫	汐澤 日出夫	奥田 直史	磯崎 誠也	工藤 慎平
土田 久	神保 尚幸	河野 恭輔	木方 眞理子	平戸 祐喜
中澤 之博	関 孝光	今野 直哉	黒田 美和子	平成25年卒
永島 一男	野原 正男	後藤 真一	田辺 進吉	金子 剛大
永田 勝彦	服部 信和	熊谷 一弘	丸山 浩二	近藤 駿平
服部 正隆	中野 功	植松 烈平	栗田 雅子	関口 鮎樹
平塚 良一	関口 真理	大沼 明	平成2年卒	早川 麻美子
宮内 和司	牛込 淳彦	三橋 昭男	石川 恵子	松山 史典
宮川 晃一	長井 一良	有川 俊一	荒川 一郎	曾村 岳郁
望月 昭宏	大川 由明	木屋 幸蔵	平成3年卒	平成26年卒
森川 美次	昭和51年卒	昭和57年卒	川野辺 晃生	野中 裕名
森崎 正美	荒沢 康夫	江田 久雄	永田 晶義	本城谷 拓
寺田 高德	井之上 佳三	黒坂 和弥	村原 伸	光山 絵美
昭和46年卒	重盛 正男	田島 みゆき	高田 昌子	中村 汐梨
大木 雅夫	前田 勉	井上 みどり	平成4年卒	水谷 祐貴
小谷 将彦	佐野 勝栄	小暮 勝彦	宮崎 裕子	平成27年卒
齋藤 政久	昭和52年卒	小椋 幸夫	林 由浩	田中 里奈
島津 学	栗村 嘉明	中村 宏昭	藤池 一誠	平成28年卒
杉田 康一	荻原 謙二	中村 明裕	松田 和夫	松原 光明
鈴木 重衛	齊藤 孝	久松 美樹	萩原 洋子	山口 健吾
高橋 秀樹	酒井 久男	宮入 尚史	平成5年卒	山口 修司
高村 誠一	深澤 豊史	三根 郁夫	岩淵 弘晃	教職員
丹野 幸久	古橋 雄二	伊藤 和宏	小泉 公志郎	青山 忠
牧原 信太郎	前川 幸生	梅田 栄一	米田 哲也	西村 克史
三瓶 辰一	山田 忠雄	内田 陽子	平成6年卒	榊 泰典
飯田 隆	関口 晴久	桑折 敬子	小池 芳暁	梅垣 哲士
昭和47年卒	堀内 晴夫	佐藤 慎一	石黒 香織	須川 晃資
内川 安雅	生方 正之	昭和58年卒	砂沢 周一	鈴木 佑典
駒屋 伸雄	新国 眞幸	岩崎 好高	遠山 岳史	大内 秋比古
齊藤 菊夫	昭和53年卒	飯田 隆久	平成7年卒	
丹呉 秀博	伊藤 俊広	伊藤 好一	岡田 賢識	
何木 正芳	五十嵐 博	栗原 清文	谷合 哲行	
藤木 孝人	植松 一郎	鈴木 康代	平成8年卒	
森 伸一	勝亦 章行	田村 精一	湯浅 貴之	以上 636名
飯倉 登美雄	小林 康秀	高山 利治	仁平 勉	
荒井 昭一	高木 英行	長 茂輝	原野 満実子	

編集後記

今年度から工化時報編集委員になりました米田です。私は一般教育の所属ですが、今年度から応化1年Bクラスの担任となり、後輩である学生と接する機会も増えて嬉しく思っています。さて、駿河台校舎2号館では刷新された材料創造研究センターが稼働中です。分散配置していた装置の拠点集約、綺麗で魅せる施設に！という管理責任者・大月先生のコンセプトによる材料分析の新拠点へと変貌しました。設計監理はステンレス製の外看板とともに海洋建築工学科・佐藤信治先生のご尽力の賜物です。なお、外された工業化学科の銘板は記念展示される予定です。ぜひ皆さんも施設と新しい看板をご覧ください。

(工化時報編集委員 平成5年卒 米田 哲也)

お知らせ

平成30年度の行事予定

7/28(土) 一日体験化学教室

8/4(土)、8/5(日) CST オープンキャンパス 2018

9/8(土) 工化会総会 14:00～(船橋校舎14号館1445室)
※総会の前にCSTミュージアムを見学予定

10/20(土) 理工学部ホームカミングデー(駿河台校舎)

11/3(土) 短大ものづくり&サイエンス・スクール 2018

連絡先

- ・住所変更に関する問合せ→会員(深津 TEL:03-3259-0805)
- ・会費に関する問合せ→会計(清水 TEL:03-3259-0803)
- ・工化時報に関する問合せ→会報(西村 TEL:03-3259-0824, FAX:03-3293-7572, E-mail: jihou-mac-cst@nihon-u.ac.jp)
- ・上記以外の問合せ→庶務(栗原 TEL:03-3259-0822)

広告募集

工化時報では会社広告を募集しています。掲載の詳細につきましては会報委員会までお問い合わせください。
掲 載 料 1 件 : 10,000円

発行所

東京都千代田区神田駿河台1-8
日本大学理工学部工化会会報委員会

西村克史, 赤澤寛行, 谷川 実, 遠山岳史, 永島一男, 萩原俊紀,
米田哲也

学生編集委員

4年: 坂井勇太, 高瀬恭平, 3年: 松本健太郎, 山村彩乃, 渡邊志龍

ホームページ, <http://www.chem.cst.nihon-u.ac.jp/index.html>